

小松電機産業(松江市) 小松 昭夫社長



「社業を通じていかに世の中に喜びを広げることが大切」と説く小松社長(松江市の小松電機産業)

工業高校を卒業した後、元々の農機具製造会社に就職し

経済面との連動企画「会社―東西南北」に今回登場するのは、日本で初めてビニール製のシャツターを開発した小松電機産業(松江市)。近年、携帯電話を使った上下水道制御システムを構築、環境に配慮した商品づくりも進めており、小松昭夫社長(65)に、会社の理念や開発をめぐるエピソードを聞いた。(聞き手・佐藤佑理)

東西南北

* 中国

モ

1973年、小松社長が、前身の小松産業を創業。主な製品はシートシャツターで、国内市場占有率は現在、約3割に。環境に対する企業理念が似た韓国・東宇技研(京畿道安城市)に製造技術や設計図面を無償提供し、東南アジアなどにも販路を伸ばす。2008年度の売り上げは約34億3600万円。従業員91人。

工夫ビニール製シャツター

思い立った。最初はジャバラのように折りたたんで開閉したが、強度が足りない。試行錯誤の末、上部に巻き込む形

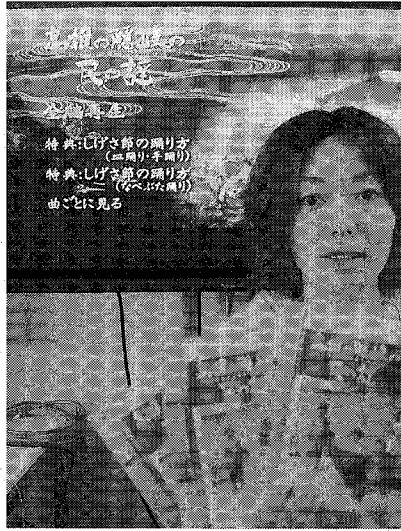
たものの、数年後に会社が倒産。大阪の南社に再就職した後、2年で松江に帰郷して、自宅の納屋で農業用ポンプなどの修理を引き受ける仕事を始めた。

1980年代初め、地元農機具メーカーから、工場に防寒用シャツターを作ってほしいとの依頼があった。条件は、冷暖房した室内の空気が逃げないように、すばやく開閉ができて、安価であること。

85年には、高速シートシャツター「門番」を開発。開閉速度はスチール製の約20倍で、1秒間に2枚。センサーを取り付け、人や運搬機が近づけば自動的に開閉する。防じん、防虫効果が高まって、

6日経済面からの続き

隠岐の景色と民謡を収録したDVDを手にする加藤さん(松江市中原町のメディアプラン)



愛好家ら 島巡り 2年かけ

か、I.V.L-島根の隠岐の民謡を2年がかりで制作した。風光明媚な町の景色を背景に、地域に伝わる伝統的な歌と踊りを伝えている。制作者らは「隠岐や民謡の良さが詰まっており、少しでも興味を持ってもらえれば」と話している。

I.V.Lを作ったのは同町の民謡愛好家グループ「五箇民謡振興会」。会員は13人だが、発足した20年前は20人以上いた。しかし、高齢化で年々減少、若者は仕事で島外へ出るため後継者が増えない状況が続いている。「何とか伝え残したい」と事務局長の藤田千鶴さん(56)らが、知人である映像制作会社「メディアプラン」

背景とする場所を扱った。島内をくまなく巡り、日本海を望む大峯山(507.7)の山頂や築約150年とされる古民家など10か所以上を選び、2007年

田市が発行した特典付き商品券「日本一清流高津川商品券」について、市産業振興課が事業の中間報告をまとめた。発行2万組のうち1万8285組が売れ、売れ残りは1割に収まったが、使用がスパーなど大手量販店に集中するなど、課題も浮かび上がった。

同商品は、景気浮揚と援としての結果となった。結果として、今後の使用を促した。同商品は、景気浮揚と援としての結果となった。結果として、今後の使用を促した。

読売新聞は地域経済を応援します

同商品は4〜6月末の間、1000円券11枚1組を1万円円で販売。使用期限は7月末までで、同月末までに取扱店が市に持ち込み換金した割合は94.6%だった。換金は8月末まで。商品券を取り扱った店舗は540店だったが、実際に商品券を換金したのは総合スーパーや家電量販店、ドラッグストアなどが約7割を占め、全店への波及効果には疑問も残った。さらに総合スーパーだけで55.4%が使用されるなど、商品券の使われ方が、日用品購入の範囲にとどまる傾向があり、新たな購買意欲の

【安来市】 東出雲市 雲南市 出雲市

【松江市】 斐川町 江津市 浜田市

【益田市】 西ノ島

「美術検定」